



17:00

BIAC事務局スタッフ会議に出席。事務局では、重要イベントや各委員会活動について全体で情報共有するため、毎日短時間の全体ミーティングを実施している。ほとんどの同僚はフランス語も堪能なため、会議や雑談の中ではフランス語のフレーズが飛び交うことも多い。OECD会合でも各国のネームプレートはフランス語での国名表記ならびにアルファベット順で並べられており、基本的なフランス語は習得すべきことを痛感する。

13:00



会合と会合の間の空き時間を使って、BIAC委員会幹部とOECD事務局員との懇親昼食会を開催。OECDとビジネスセクターとの協働について、フレンチを味わいながらの議論が弾む。ちなみにレストランだと1人当たり20〜30ユーロほどかかるため、普段はパン屋でサンドイッチを買ってBIAC事務局員とオフィスで食事することが多い。日本の居酒屋のランチセットが恋しい。

18:00



理事会関連の資料を作成した後、退勤。繁忙期には残業も多くなるが、事務局員の多くはメリハリをつけて働いている。数少ない日本人職員として、今後も日本のビジネス界とOECDとの橋渡し役となるよう精進していきたい。

14:00



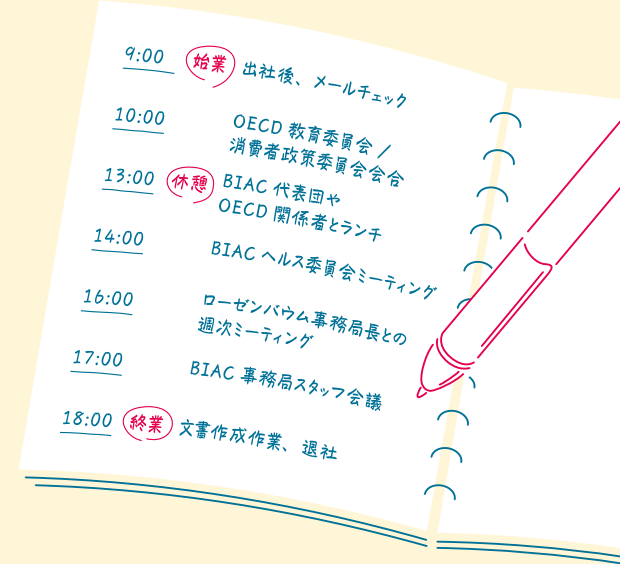
BIACヘルスケア委員会の会合を終えた後、幹部の意見を踏まえプロジェクト文書を修正する。

16:00

BIAC事務局長との週次ミーティングでは、次回BIAC理事会の議題や文書構成について議論。BIAC事務局員は全体で18人(2024年5月現在)と少数精鋭のため、事務局長含め活発にコミュニケーションを取りながら日々業務を行っている。



第一生命保険より
BIACに出向
かくだ
角田 みなみ



BIAC

職員の1日

9:00



パリ16区のOECD本部近くに位置するBIAC事務局のオフィスにてメールチェック。その後、オフィスから徒歩7〜8分ほどのOECD本部に移動する。カンファレンスセンターのロビーで提供されるコーヒーを飲みながら、BIAC各委員会の出席者と会議の発言内容について打ち合わせたり、各国の代表者が集まる好機を活用してご挨拶を行う。

10:00



OECD教育委員会の会合開始。4月や11月の繁忙期などは担当分野のOECD会合が同じ日に重なることも多く、この日は教育委員会と消費者政策委員会の二つの会合を掛け持ち、議題の重要性に応じて都度移動しながら議論をキャッチアップ。ほとんどの議題は口の字型に並べられた机に各国の代表者が着席し、厳かな雰囲気のもとで行われる。他方、委員会によってはブレイクアウトセッションを設け、出席者全員の主体的な参加・活発な意見交換を促すべく、ポストイットにそれぞれの意見を書きながら少人数のグループで議論する場面もある。

BIAC(Business at OECD)は、産業界の声をOECDに届けるべく設置された、OECDの公式の諮問機関です。加盟各国を代表する経済団体で構成され、日本からは経団連がメンバーとして参加しています。BIACは約30の委員会等を通じてOECDにおける議論に関与しており、年間に延べ3000人以上がOECD会合に参加、280以上の政策提言を取りまとめ、OECDに働きかけを行っています。こうした活動をサポートするため、BIAC事務局には各国の様々な企業・団体等からスタッフが出向しています。BIAC職員が日々どのような業務を行っているか、その日常のリアルなレポートです。